

明治三十五年十二月發行

高等國語讀本字解

女子用

下篇

發兌 金港堂書籍株式會社

時46
763

時50
508

高等國語讀本 女子用 下篇字解

卷一

一

松平樂翁

〔定信、田安宗武ノ第七子ニシテ白川ノ城主松平定邦ノ嗣トナリ徳川將
軍家齊ノ時老職トナリ政績頗ル著シク後世寛政ノ治ト賛稱セリ文政十二年

卒、樂翁ハ文政九年致仕、後々號ナル

常磐

〔水久變リナキナ云フ〕

芳しく

麗しき

争で

路行く

大

赤シ他火

形見

理り付けて

六田

慈愛

我

我が身を物とせん

〔君父ノタメニハ我が身ヲモ捧グベキノ意〕

六田

吉野山ノ麓

並

木

大よー

〔大抵ト云フ〕

比

初櫻

僧房

三丁

否

善シ惡シ

立春

盛最中

四丁

曙

好

真白

〔二十四氣ノ一ニシテ太陽曆ノ二月三日ニ當ル〕

綻びたる粧

浮世の外云々

盆

侍れ

雲透き

〔向フニ雲ヲスカシテ〕

あやなし

美シカラヌ

益

敬語ナ

上

高等國語讀本女子用下篇字解



已然體ヲ用ヒタルナリ、
斯様 目出度 唐 花より

明くる 花が一パンサキニ、アサヒノ
唐土人 高麗人 五丁 延

元 今ヨリ凡ソ五百六十
直義 京師 侵さん 新田義

貞 寡くして 利あらず 湊川 民舎 族従

持佛堂 家ノウチニカザル小
物の間 窺へば

櫻井驛 大和ノ國十市
形見の短刀 諸肌 かしぬぎ

て 六丁 故判官 反されし 亡き跡

吊はれん かかる事 運盡き 撃死 朝家 抽ん

て 従屬 扶持 義旗を舉げ

同行 末 諫り 泣き倒れ 附 沈み 遺誠

軍陣の形 テノカタチ 朝敵 天皇ニ手ム 寇 育て 情 輝

かせり ことわり 聖賢 ケンジン、 天下の至樂

延喜 醍醐天皇 天曆 村上天皇 萬民和樂 紀貫

之 八丁 宇多天皇 第九代 上流 綴る 土佐の守

任満ちて ヤクナツトメルキ 土佐日記 都良香 事蹟 時文

源順 禁裏 ヨ、 梨壺 昔ノ禁中ノ六 後撰和歌集 九丁 文時

大江朝綱 建白 意見ヲ上ヘ申シ 遣唐使 スツカハ 停め 崩れ

清涼殿 名 御座所 濃く 女主 書附 叡覽 勅

なればいと畏し 天皇ノオホセテアレバ、ハナ 宿 奇しく 鶯

宿梅 故事 フルキヨニアリタル コトドモチイフ、 優美 ツクシキ、ウ 紫式部 清少納言

十丁

清原元輔 即チ梨實五人

皇后 藤原定子、(關白道隆ノ女)

上東門院 藤原彰子、(攝政道長)

遺愛寺の鐘は枕をそばだててきき、香爐峯の雪は簾

をかぶけてみる 是レ唐ノ白居易トイフ人ノ詩ノ句ナリ

十丁

笑ませ ニツコリトワ

敏才

故老の學士 自らの草紙 清少納言ガツクリタル「ま

り 似げなき 史記 支那前漢ノ司馬遷トイフ人 本意なかり

博く 謙遜 宣孝 二夫に見えず 二度ト夫チ 中宮

御許 淑徳 淑ハ良善ナルナリ、多ク婦人ノ徳ニイフ、大貳三位 藤原

辨局 後冷泉天皇 松任 地名、俳諧 行脚

盧元坊 草臥れ 寢て 千代女 一句せよ 一旬ツ

杜鵑 題 肯はず 誰もすべき所ナリ

容 婦功 智慧 才覺 麗しく 眉目の艶やか 爽やかに

能辯 可否 曉 女流 尋常の人 ノヒト、 婦言 婦

業 企て 驕慢邪慾 志操堅固

卑陋 起居 省み 假

初 偽らず 毀れ 結ひ 湯あみ 紡み績ぎ

鹽梅 響應 油斷 惡念 心易く 艱難

苦勞 稟け得て 成就 髮容 髮飾

履物 厭く 政子形 御臺所 政子御前 模し

たる 徘徊 古代模様 更紗

形

更紗染ノカタ

十八丁

天平ざれ

天平ハ奈良朝ナル聖武天皇ノ御代ノ年號ナリ

什寶

物、タカラ

利休

鼠・遠州鼠

利休ハ千宗易、遠州ハ小堀遠江守ニテ何レモ有名ナル茶人ナリ

冠れる

繰返す

紋服

紋附キノ衣裳

鮫小紋

鮫ノ皮ニ似タル小粒形ノ小紋チイフ

行儀小紋

繪草紙

衣櫃

衣服ヲ入レルヒツ

箱、〇たんす、長持ノ
タケヒチイフ

あな

洩らさず

我意

分限相應

さてあるべし

佛蘭西

氣味ありとな

ん

結髪

御宇

散髪

鬘

蝶々鬘・兵庫鬘

島田鬘

丸鬘

束髪

不都合

手技

延ぶる

一向に

をさく

眺め

八千草

草チイフ

なづさひし

前裁

梢

處得顔に

任せて

昔覺ゆる

花橘の香れる

り水

音もせですだく

追ひ風

早苗

田家

遣

啼く

哀む

氣色

峯

大空

聳え

白樂天

放にして

水無月

端居

夕風

匂ひ

異草

藁

ふだ

池の心

蓮葉

夕風

匂ひ

異草

他ノ草チ

笑みの唇

涼を逐ひて

木陰

休らひ

掬ひ

掬ひ

手ニ

心地

潔し

夜半

清き水に宿して

名残り涼しき

宿して

月ノ

聴く

いみじう

夕立

名残り涼しき

宿して

宿して

月ノ

ひさかたの

手もたゆまきまで

蝙蝠

の扇

かひしなげれば

かひしなげれば

かひしなげれば

かひしなげれば

かひしなげれば

かひしなげれば

ナリトバ) 岩間の清水 イハノマツ イハノアヒダカラ 袖沾ちて ソデヒ ラシテ 小棹 コサザ 手弱 テユ

女 メ スガタシナヤ 遠山の眉 トホヤマ 山ノ青キチ見立テ 上つ瀬 カミ 上ノ方ノ (瀬トハ川水ノアサク カハセ、洲ノ上ナドチナ

カレ、人がカチツタリ) 篝火 カガヒ 鐵ニテツクリタルカゴノ中ニ、松ノヒレ 千船百船 チフネ モモフネ 列車 レツシヤ

鐵道列 テツドウ 榑木縣廳 トチ ギケン チヨウ 正北 セイホク マツキ 支線 シセン 本線ヨリ分カ 遊覽 ユウラン 見物

コト、 大澤村 オホサハムラ 夾み キシハサ 慶安 ケイアン 今ヨリ凡ソ二百五十 年バカリ前ノ年號 松平右衛門太夫正 マツダヒラウ エモン ダイフ

綱 ツナ 雲を凌ぎ クモ 雲ノ上ニ出デント 大谷川 ダイヤガハ 神橋 ミハシ 朱漆 シユスリ 赤キウルシニ 欄 ラン

干 カン 橋ノテ 鍍金 トキン 減金(メツキ) 擬寶珠 ギボウシユ 欄干ノ柱ノ頭ニ飾ル「ホウシユ」 ノ玉ノ如キ形ノモノチ云フ、 奇しき巖 イハ

メヅラシキ 激し ゲキ 觸レ逆ラフ 沫を噴き アハ アハダツ 日光の結構 ニツ ケツ 世ノ諺ニ「日光 チ見ヌウチハ結

條 ジョウ チ一ス 爪先上り ツマサキアカ 直徑 チヨクケイ タシツ 表門 オモテモン 彫刻 チヨウコク ホリモ 極彩色 ゴクサイシキ 極上 ノ色

ドリ、 唐獅子 カラ シシ 石垣 イシ ガキ 階段 カイ ダン 鐘樓 シユ ロウ 鼓樓 コ ロウ 釣燈籠 ツリ ドウ ロウ 釣 ツリ

鐘 カネ **三斗** ハス ト ロウ 蓮燈籠 レン ドウ ロウ 蓮花ノ形チナセ 日暮御門 ヒ クラシ ゴ モン 陽明門 ヨウ メイ モン 丹青 タン シヤイ グ ノ

ツカヒ〇彩色ト云フ 日の傾く ヒ カタク 日ノ暮レン 妙手 ミョウ テ 名人、 狩野探幽齋守信 カノ ノ タン ユウ サイ モリ ノ ブ

安信 ヤス ノ フ 土佐將監光起 トサ ショウ ケン ミツ オキ 左甚五郎 サ シケン ゴロウ 唐門 カラ モン 唐木 カラ キ 紫檀 鳥木(コクタン)た がやさんノ類チ云フ、

拜殿 ハイ デン 本殿ノ前ニ建テタルモノニシテ、 即チ神ヲ拜シオガム所ナリ、 門牆 モン カキ 門ヤヘ 賞贊の詞を措くを知 ショウ サン ノ コトバ ヲ オク ヲ チ シ

らず ラズ 何トホメテ善キヤラ 鳳凰は桐に栖み云々 ホウ オウ キリ ノ ス 此レハ彫刻ニ此クノ如キモノノ形 チキザメルチ見立テ云フナリ

虎嘯き龍舞ひ トラ ウツ リ ヨウ マ 彫刻シタル虎ヤ龍ノ形ガ極メテ巧ナルユエ、虎ハ ホエ龍ハチドラントスルガ如キサマナルチ云フ、 桁梁 ケタ ハリ 彫紋 チヨウ モン タリ

モヨ、 綾錦 アヤ ニシキ 總金の床板 ソウ キン ユカ イタ ソータイニ金箔チオ 何ぞ限あらん ナニ カ ギリ 限リナキ チ云フ、

優美 ユイ ビ クシヨクウツ **三斗** ハス ト ロウ 華美 カ ビ クシヨクウツ 眠猫 ネム リ ネコ 猫ガネムツテ居ルカタチチ、 キザミタルモノナリ、

石階 セキ カイ ン シダ 級 キ イ 一段チ一級 晦く ク ラ 金碧 キン ペキ 金色ヤ碧 崇く嚴かなる タツ ト オゴツ

高等國語讀本女子用下篇字解

玉垣 タマカキ 低キ垣

唐銅 カラカネ 銅ニ錫(スズ)ヲマゼテ作りタル金屬

大寶塔 ダイホウトウ

近古二百五十年英

雄 ユウ 徳川家康ヲ指ス

畢り ハハ

二荒山神社 フタアラヤマジンジャ (大己貴命(オホアナムチノ)ヲ祀レル社ナリ)

地主神 チヌシガミ 中 チユウ

古 コ 中ゴロンムカシ

靈屋 タマヤ

詣づ マユ ルコト

工事 コウジ フシ

廟所 ヒョウジョ ヤ、オタマ

天 テン

裝飾 ソウジヨク リ、カザ

勝 シヨウ ル景色

草鞋 ワラジ 紐 ヒモ

裏見の瀧 ウラミ タキ

華嚴 ケウエン

中禪寺の

湖 ミヅウミ 攀ち コト ツカマル

裏手 ウラテ カ、ウラノ

其の他の瀧 ソノタ タキ

布引瀧、慈眼瀧、方等瀧、般若瀧、龍頭瀧、眼瀧等ヲサス、般若瀧

斷 タン

岸 ガン カケ、(ギリ)

溢れ アフ

半空に雲霧を起し ハンクウニウンム オコ

瀧 タキ ガケニフンテ水玉四方ニ散リ、空中ニ霧ノ如ク上ボルサマテ云フ、

岩燕 イハツバメ 形状暑、燕ノ如クニシテ尾羽ハ短ク且分叉極メテ淺ク、殆ンド分レザルガ如シ、頭ヨリ脊部ニカケテ光澤アル黒色テアラハシ、腰部ハ白ク尾羽及ビ翼ハ黒色ナリ、此ノ鳥ハ群ヲナシテ絶壁ニ土ノ巢ヲツ

豪壯 ゴウソウ シスバラ

啞の如し アゴト 出ヌト云フ意

行程 コウテイ チ

中宮祠 チュウクウジ

黒髮山 クロカミヤマ

緑を凝らす キナドリ ルチ云フ

明媚 メイビ ユカシキ

往 オウ

年 ネン トシ

湯元 ユモト

湯湖 ユノミヅウミ

奇勝 キシヨウ キ景色

第一流 ダイイチリウ 第一等ノタケ

男體山 ナンタイザン

満山 マンザン 山シユノコラズ

石楠花 シヤクナガ 高サ六七尺ノ灌木ニシテ葉ハ枝ノ末ニアツマリ、本廣ク未狹クシテ厚シ冬枯レテ夏ノ初メニ濃紫色ノ花ヲ著ク、つちニ似テ大ナリ、又白

躑躅 ツツジ

一抱 ヒトカカヘ

神秀 シンシュウ 樹木ノフシギニ秀テタルサマ

關東管領 カントウカンリョウ 〇足利氏ノ

由比濱 ユビハマ

稻村ヶ崎 イナムラガサキ

若江島 ワカエノシマ

金澤八景 カナザハハツケイ 平瀧(ヒラカダ)ノ瀧、野島ノ夕照、稱名寺(シヨウメイジ)ノ晚鐘、洲

大鳥居前 オホトリノマエ

聖武天皇 シヨウムテンノ 人皇第四十五代

朝比奈 アサヒ ヒナ

極樂寺 ゴクラクジ

鶴岡八幡宮 ツルガフカハチマン

建立 ケンリユ 重モニ寺院佛像ヲ造リ立ツルニ用フル語ナリ

津浪 ツナミ

失せ ウセ

礎 イシツエ 石

長谷の

觀音大士 カンオンダイシ

同木同作 ドウキドウサク 同シ木テ同ツ人が作りタルモノ

北條時頼 ホウジヨウキヨリ 北條氏第五代ノ執權ニシテ即チ

建長寺 ケンチョウジ

圓覺寺 エンカクジ

圖りて ハカ 亡ボサントハカルヲ云フ

贈正二位日野俊

基卿 モトキウ 後醍醐帝ノ爲メニ北條氏ヲホロボサントシ、藤原資朝トシバ相會シテヒソカニハカリ、此ノ會ヲ名ケテ無禮講トイヘリ然ルニ事モレテ北條氏ノ爲メニ捕ヘラレ關東ニ押送セラレ後コロサル

建長寺 ケンチョウジ

圓覺寺 エンカクジ

圖りて ハカ 亡ボサントハカルヲ云フ

贈正二位日野俊

基卿 モトキウ 後醍醐帝ノ爲メニ北條氏ヲホロボサントシ、藤原資朝トシバ相會シテヒソカニハカリ、此ノ會ヲ名ケテ無禮講トイヘリ然ルニ事モレテ北條氏ノ爲メニ捕ヘラレ關東ニ押送セラレ後コロサル

葛原岡神社 大塔宮 後醍醐天皇ノ第四子護良親王ノ第 籠居 居ルモリ 鋤かれ 運慶

湛慶 二人ノ名 彫像 木ボリノ佛像 鎌倉彫 種々ノ模様チキザミテ多クハ地チ黒塗りニシ又朱茶色ナドニテ色取りタルモアリ 保

養留寺 御評様 御評様 オマヘ 推し上候 オサツジマウ 見物

見事 忝なく 松下彈尼 隱宅 シヨ、キヨ 煤けたる スス、ホケ 秋

田城介義景 接待 シ、モテナ 一間 宇平 なかなかにかに イフコト、ト

まだら トラ、コロマ 修理 シユフクス 天が下 小破 レ、コシノヤブ 時に從

ひて、ソノトキ 藤九郎盛長 入道覺智 俗ノ人、佛門ニ歸シテ、髮チソリタル後ハ入道トイフ 最明

寺 大方 イ、イテ、三平 例へば 手順好き 字形 タチ、ソカ 差

ひ 詰む 疾く、ハヤ 處理 クト、サバ 寒え 三平 出納 レ、出シ入

基礎 (ド、モト) 豫算高 見ツモリ 途 整ふ 入るを量りて 金錢ナドノ入りカ

充満 イツパイニミ 漏泄 水ガモル 確定 メタル、キ 左右する 變

厳密 キビシク、コマ カニスルコト、三毛 家計簿記法 クラシノ費用チ、チヨイメンニ、ツケルシカタ、支

出 ハラヒ出 些少 ズカ、マギ 紛れ 帳合調はざる 合ハナクナル、ツリガ、司る

収入金高 取り入レ金 納金 手ニハイ 冗費 ヨケイナ 三六

慮らざれば フカク、カンガヘテ、 うろたへ コト、 前兆 マヘシ(キザ) 裂

け 非命の死 病死ニアラザルチ、非 遂げ 損失 ツツガ 恙なき 無事ナル 遁

れ 屋の内 ヲチ、 簞笥 支ふ メル、ト 便り 手近 三平 蒲

團・搔卷 夜着ノタケ 迫り 隙 居残り 萬の寶 慾に耽る 夜

著 凌ぎ 扶出 出ス、ケ 老功の人 タル人、 棒簞笥 一ツニツツキダ

重れ簞笥 ニツノタンズチカサネテ、一ツツキニ見セタルモノ、ハコビ出ス 行李 四子

手傳へ 遮り 焚ゆる 風害 津浪 災難 徒ら

に 處置 却つて 怪我 震動 動搖

倒し 人畜 傷ふ 慘ましき 海岸 一例

火煙 噴き 浅間山 阿蘇山 破裂 磐

梯山 ゆゑよし 溶け 活動寫眞 線香 閃く

覗き見る 鯨 潜り 躍り 喝采を博したる

幾層 機巧 實況 嗚呼 物象

眼底 網膜 感覺 消滅 視神經 刺激

現象 状態 静止 移行 暫時

少頃ありて 大笑 眉を擧めたり 演劇 競馬

片々として 舞踏 演劇 芝居 競馬

渚 旌旗 翻り 砲烟漲る

幻燈 急劇 映寫 装置 撮影

状態 徐々 映さん 奇觀を呈す

起因 片田舎 染粉 自身 由來

四丁 營造 器具 良好 跡を絶ち 委

托 日頃 練習 技術 満足 原

料 資本 工作 區域 一層 需

要者 廉價 徒費 案外 巧

高等國語讀本女子用下篇字解

拙下手

精巧

停滞

染工

鮮麗

機織師

縞物

機械學

建築師

設計

圖案

建築ノ圖取

指物師

機、本箱、椅子ナドノタテ

鍛冶師

外觀

橋梁

ハシ、

用材

硬軟

韌性

鐵軌

道線路ノコ

廻折

内軌

外軌

運動體

遠

心力

を積み

精密

通じて

業を分ちて

經驗

以

燈明臺

監守人

颶風

巖山

溺

れ

卒丁

漕ぎ

捲き

權

難船

勇敢

イフ、

海底の藻屑となる

死スルチイフ、

比類

舉りて

ミナ、

賞讚

至丁

肖像

撮り

ほめのしり

公德

ト、

謙遜辭讓の心

具へ

人道

難澁

至丁

雅い

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

ク及ボシテ、

後先

陥り

難澁

至丁

恤み

主なる

特有の精神 トクベツニソナヘテナル精神

三丁 數層 スツロイ

匹夫 身分ヒク(平民)

河野通有 通時 通忠

元寇征討 蒙古ノ敵ヲセイバツスルコト

稱揚 ホメソヤ

かざる 止メナ

尙 ナホ つらく トク

形勢 ケイセイ マリサ

擴張 カク オシヒロメテ、サカンニスルコト

策 サク ハカリ(テダ)

宇内 ウナイ 世界ヲ

異域 イイキ 異國ヲ

酷熱 コクネツ アツサ

三丁 古來 コライ

未曾有 ミゾウ ムカシカラ今マデ、カツテアツタコトノナイ

奇しき功 キシキコウ メヅラシキテガラ

非を悔い ヒヲク ツブソノワルイトイフコトヲ

臺灣澎湖列島 タイワンホーコレット

償ふ ツクノ 戴き イタダ

沐浴したる君恩 モクヨク 十分ニウケタル、キミ

聖詔 セイシヨウ 天皇ノミコトノリ

生を輕んじ死を甘んじ セイヲカローシシヲアマ イノチヲステルコトヲ、ナントモ思ハズ、國ノタメニハ死ヌコ

山邊赤人 ヤマベノアカヒト 田子の浦 タゴノウラ

彌益 イヨイヨマスマス 世界唯一 セカイ ヨリ外ニ無イ

降り フリ 奈良の朝 ナラ 元明天皇ヨリ光仁天皇マデノ七代ノ間ハ奈良ニミ

委しく ツカ 柿本人麻呂 カキノモトノヒト

眞白 マシロ 高ね タカ 降り フリ

聖武天皇 セイムテンノ 第五十代

傳 デン 一代記

負けず マカズ 歌聖 カセイ 歌ヲヨムニスガレタル名人

四丁 眺望 チヨウボウ ナガメノゾム

意義 イギ ケアヒ

元 ゲン

祿 ロク 今ヨリオヨソ二百年アマリ前ノ年號

下河邊長流・僧契冲 シモカワナガハルソウケイチュウ

穿鑿 センサク クハシク、ギンミスルコト、謂は

ゆる ユル 世ニイ

荷田東麻呂 カダアツマ 研究 ケンキュウ フカクキハメルコト

相上下せり アヒシヨ マサリオトリナキチイフ

五丁 加茂眞 カモノマ

稻荷山 イナリヤマ 京都ノ近傍

ねを絶えて ネヲツグ スコシモ小島ノナキゴエガ、キコエヌチイフ

淵 フチ 精しく クハ 橋千蔭 ハシチナカゲ 村田春海 ムラタハルノ 本居宣長 モトヨリノリナガ 醫術 イシユツ クモン、

先輩 センバイ ムカシノ學者

搜り サグ 片成り カタナ 半分出來カケタルチイフ

大成 タイセイ コトゴトク、シアゲルコト

出藍の スイラン

名 ナ 荀子トイフ書ニ、藍ハ藍ヨリ出テテ藍ヨリモ青シトアルニ出テタルコトバニテ、其ノ師ヨリマサリテ居ルトイフ評判チイフナリ

王公貴人 オウコウキニン タツトキ上ヘツガタノ人々

六丁 生涯 シヨウガイ ガイ、

存生中 ソンショウチュウ イキナガラヘテチルウチ

讀經 ドクキョウ キョーモンナヨムコト

命日 メイニチ 母ノ死ダ日ニアタル日チイフ

史傳 シデン 歴史

終極の目的 シュウキョクノモク トドメノツマ

弘まる ヒロ

感化せらる カンカ アヤカフテソレニ化シテシマフコト

傳記 デンキ

平田篤胤

靈位

師弟の誓

博覽強記

オホエヨ

雄辯壯膽

一世を靡かしたり

ツノ時ノ人々、ミ

タルチ

蓋し

七丁

紊亂

大義

辨へ

王政の復古

ムカシニカヘリテ、天皇ガ

促し

夕雲雀

芝

生

テキルトコロ

羈中時雨

都出でて露をい

に云々の歌

露ハ秋ニ多ク、時雨ハ冬フル雨ナリ、宮城野ノ原ハ陸前ニアリ、歌ノ心ハ、京都テ出立シテ

蘆庵

北まどふたげ

冬ハ北風多シ、ユエニ北ノマド

變遷

嵐

小澤

中古

奈良朝、平安朝

渴者

歓迎せられ

律令

格式

律令トハ我が國ノ古キ法

風土記

宣告

請暇

イトマチ願

思想

語源

語法

固有

撲滅

僧侶

形式の美觀

九丁

文武離

隔

朝野蔽塞

舉世迷霧の中

にあり

密著

活用し

經

緯

拙劣なる

文章生

客とし

物語體

水戸義公

林道春

信長譜・秀吉譜

猿の狂言

駿々

三宅觀瀾

遺憾

帆足萬里

猿の狂言

駿々

冷遇

俊才

信長譜・秀吉譜

猿の狂言

駿々

三宅觀瀾

遺憾

帆足萬里

猿の狂言

駿々

冷遇

俊才

信長譜・秀吉譜

猿の狂言

駿々

三宅觀瀾

遺憾

帆足萬里

猿の狂言

駿々

冷遇

俊才

信長譜・秀吉譜

猿の狂言

駿々

云フヨリ轉シテ進ミノ速カナルコト、
十一 特性 特別ノモ
證明する事實 ショーコ立テテ明カニシタルコトガラ

畫工 エカ
泉州堺 和泉ノ國ノ堺
一國寺 千利休 有名ナル茶ノ湯
檜の

樹彩色 イロド
古法眼元信 足利時代ノ名ダカキ畫師ニシテ、狩野家ノ元祖ナリ、
そのかみ

寓居 カカリズマヒ(キソウロフ) スルコト、
碁 三とせ 三年、
住持 寺ノカシ

圍碁 ゴチウツ
愚老 在 京 京都ニトリユ
名残り 年來の恩

謝 トシゴロ、御恩チウケタ
遺し 小坊主 居間
そと (カニ)

れ サツハ
明り障子 昔ハ今ノフスマノコトナ障子トイヒタリ、ソレユエ、
腰板 寢起

きす ネタリ、オキ
來ふかし 「コイヨ」ト、ネンチ
寢間 **十三** 畫勢不

凡 エノカキカタ、ナミ
丹青の妙 エノグノツカヒカタ
夜もすがら 夜ドホ
と

やせん、かくやあらまし カウシヤウカ、アアシ
つぶやき 口ノウチニテ、ブツアツ言フコト、

夜更け ヨ
許 禪師 僧チタツトンデ
いやとよ 否ナ、
十四 適ひ

暇乞ひ イケ
池野大雅 秋平 鳴れり 世ニ名ダカク
三絃 サミセ
妙

手 名人チ
安永檢校 檢校ハ官人ノ
警者 ラメツ
近隣 リナ
殊更 **十五**

弾き ウラカハ
裏皮 一期の思ひ出に 一生ノ中ノ心ユカ
皮の全き ウラ、オモ
テトモ、皮

かす思す オホ
不マンゾク
おもちして カホツキ
かたはらいたけれ ヲラフベキ
あ

妙處 トコロ、マイ
十六 土瓶 急須 小サキ土
煎じ 挽き 茶筌

竹チホソク幾本トナクワリテ、ささらノ如クニシ、
之ニ柄チスゲテ、茶チカキマハスニ用フル具ナリ、
泡立たせ 濃茶・薄茶 夜込

朝茶 アサチヤ
飯後 夜話 **十七** 稱へ 不時 催す 正式
タダシイ

風爐 フ
炭火チオコシテ、釜ノ湯
水指 釜ヘサス水チ
入レオク具、
建水 茶ソシナドテアラツタ水
茶

高等國語讀本女子用下篇字解

杓 シヤク 湯チケム、ヒシヤクナリ

棗 サウ ヒキ茶チ入レカク具

茶巾 チヤキン 茶ワナドチフクニ用フル布巾ナリ

くさぐさ クサグサ 口、イロイ

通常 ツウジョウ イ、レ(ナミ) 等し

沸かす

拭ひ

挽きたる

棗實 サウジツ ノナツメ

説 セツ シハナ

盛時 セイジ サカンナ時代

佐々木道譽 ササキミチノリ

大小諸侯 ダイサイショウコウ 大名小

集へて

茶會 チヤカイ 定かならず

極意 ゴクイ シカクカキ

紹鷗 ショウウ 侍臣

侍臣 シヤウジン ヤク

起居振舞の作法

委

珠光 シュカウ

流派 リウヘ ギ、

有樂・金森・石州・遠州

現今 ゲンコン マ、

表裏千

競ひ

家流 ケリウ 江戸千家流

主客 シュカク 客人

旨とす ムネ 本意トスル

徒らに

競ひ

斯の道 スノミチ 茶ノ湯ノ

合はざる

時分がら

イフコト

とむ空

御さ

えぐしく エグシク ゴキゲンヨクトイフニ同ツ

例年の通り

マイトシノキマ

御めむじにゆづり申

愛相 アイソウ 御越し

御出テトイ

御めむじにゆづり申

化粧 ケシヨウ 薔薇

蒸餾 シュウリウ ハツサセ

麝香猫 ジャウコウネコ 印度ナドノ熱地ニ産スルケモノニテ、體ハ猫ニ似テ二尺バカリアリ、顔ハ狐

佳く ヨク 精分

一滴 イツテキ ラヒトタ

丁字 テイジ 龍腦・樟腦

匂ひ袋 ニホフクロ

候 コウ オメニカカツタ上フコト

化粧 ケシヨウ 薔薇

蒸餾 シュウリウ ハツサセ

麝香猫 ジャウコウネコ 印度ナドノ熱地ニ産スルケモノニテ、體ハ猫ニ似テ二尺バカリアリ、顔ハ狐

樟 クサノキ 調合

臭氣止め クサイニホヒ チ、トメル

厭はしく

考案 コウアン カンガ

手ずさみ テナガ 手違

ゆくりなく ユクリナク 思ヘモヨラズ

一子相 イツシヨウ

傳の秘方 デンヒ タハツテキル大切ナル法

掛け香 ケケコウ 香爐

焚き

籠め

玉 タマ フクロノ中へ、香物チ入レ、ソノマハリニ種々ノ造リ花チツケテカザリトシ、ソノ下ニ五色ノ糸ノ八尺バカリナルチ下ゲテ、みす又ハはしらナドニカケオキ、不淨ヨケトスルモノ

仁明天皇 ニミョウテン 第五十四代

本康親王 ホンキヤスシノウ

光孝天皇 コウコウテン 第五十八代

公忠朝 キョウチュウアサ

臣 シ 達人

侍従 シヤウジユ 梅花・荷葉

傳授 デンジュ

加減 カケン

自傳 ジデン し

工夫 コウフ シテ、ツタヘルコト

物料 ブツリョウ コレニ用フ

毛厘の差 モウリンノサヒ 厘ノチガヒ

奥方 オウカタ

けたか

く キコト、(上品ナ)	くれむし ナニガシ ニ同シ、	姫君 ヒメキミ	舶來 ハクライ 外國ヨリワタリ	か様 カサマ
廢れ スダ	伽羅 キヤラ	薰り カホ	留め木 トメキ	三十三 シノドリカン
志野三郎右衛門入道宗信 シノノサブローエモンニユードイゾウシン	方式 ホーシキ	米川侯常伯 ヨネカハコージョーハク	文龜 ブンキ 後柏原天皇ノ御時、今ヨリ凡ソ	
此の流れを汲みて ソノリユーギニ、	銀葉 ギンヨ 銀デツクツタ、ウス	手續き テツツ	組 ク	
み香 ミカ	源氏香 ゲンシカ	饗應 キョウオウ	順次に ジュンジュン	五炷 ゴシュ
た タ	鑑定 カンテイ	縦に タテ	五線 ゴセン	譬へば タト
箒木 ハハキギ	符號 フゴウ	細川三齋 ホツカハサンサイ	伊達政宗 イダマサムネ	弓矢の道 ユイヤノミチ
執心 シユシシン	好ムコト、 フカクスキ	本木 モトキ	杜鵑 ホトトギス	初音の心地 ハツネチ
ち、 うき ウキ	憂キ、 (シンパイゴ)	柴舟 シバフネ	焚かぬ先 サキ	藝能 ゲイノウ
れ テユクトニカケテイフ、	とりどりに コレモ、	賓客 ヒンカク	藝能 ゲイノウ	

はかなき遊 アソビ	習はし悪しくす ナラ	僕從 ボクジュウ	戰場 センジョウ
家の位 クラハ 貴賤貧富ノ格チイフ、	内輪 ウチワ	放逸 ホウイツ	三十三 セン
僞 イツハリ	嚴しく キビ	假初 カリツメ	三十三 セン
人 シン	心タダシカ ラヌ人、	風儀 フウギ	英米人 エイベイジン
心 シン	夙に ソクニ	養成 ヨウセイ	與りて力ある アツカ
母 ボ	ヤサシイ	膝下 ヒツカ	懐いて寐ねず イダ
ヤサシイ コトバ、	野邊 ノヘ	謝禮 シャレイ	挨拶 アイサツ
整理 セイリ	ツストノヘ、シマ	亂雜 ランザツ	處置 チュウジ
勞 ロウ	ホネチ	安逸 アンイ	一見 イツケン
			酷薄に失す コクハク
			粗服 ソフク
			勤 キン
			泣く兒 ナクコ
			溫言 オンゲン
			慈 ジ
			後れ オク
			功名 コウメイ
			小 ショウ
			萬にさとくととも マンニサトクトトモ
			獨立の精神 ドクリツノセイシン
			他人ノタスケサウケズ、 自分テ自分ノ身ヲシマツ
			ソノ中ニ加ハツテ、 タスケニナルコト、
			玩具 ガング
			オモチ(モテアソ)
			ビモノ
			習慣 シユカン
			セ、
			世話 セワ
			携へ タツサ
			泣く兒 ナクコ
			温言 オンゲン
			慈 ジ
			後れ オク
			功名 コウメイ
			小 ショウ

本來 ホンライ ト、モトモ 情愛 ジョウアイ 天然 テンネン 心を碎く ココロヲクサレ 情義明白 ジョウギメイハク ト、ギ

氣象 キョウゾウ 生存競争 セイゾンキョウソウ 五ヒニ世ニナガラヘテ、盛ンニナラ 成年 セイネン オトナトナ

學校生活 ガクコウセイカク 學校ヘ通ツテ學問ヲ 社會生活 シャカイセイカク 世ノ中ニ立ツテ、クラ 三六 交際 コウサイ

財産 サイサン シンド 家計 カケイ ライシノク 寄寓の家 キヨウノイ キリユウシテ

贈答 ゾウトウ ヤリト 基礎 キゾ イ、ダ 赤十字社 セキジウシヤ 恐し オドロ

見舞料 ミマヒリョウ 電 デン 傷者 キヤウシャ タモノ、ウケ 野戰病院 ヤセンビョウイン 軍 グン

能く盡す ツク 筆トカミニテ、書キツ 衛生隊 エイセイタイ 創者 ソウシャ タモノ、ウケ 野戰病院 ヤセンビョウイン 軍 グン

治療 チリョウ ザ、 惡疫 アクエキ リヤマヒ 準備 ジュンビ イ、 見殺 ミゴロシ テシマフコト、

救護收容 キョウゴウシユウ ケスケテ、カタツ 敵身方 テキミカタ 療養 リョウヨウ ルコト、 命を イノチ

組織 ソウシヨク ケミ立 設立 セツリツ ケル、 敵身方 テキミカタ 療養 リョウヨウ ルコト、 命を イノチ

鴻毛の輕きに比し コウモノカサガカリ ハチ一命ヲステルコトヲ、何トモ思ハヌチイフ、 憐み アハレ 捧げ ササゲ

至當の理 シトウノリ クノドリー 由來 ユライ コト、 聯合 レんゴウ コト、 露西亞 ロシヤ クリ

ミヤの戦争 ミヤノセンソウ クリミヤハ黒海ニツキ出テタル半島テアル、露帝ニこらすハとるこ國ノオトロヘタルヲ 委棄せ イキ

義舉 ギキョ 正義ノ爲メニ 救護團 キョウゴダん 人ヲスクヒ保護スルコ 幾ばくもなく イツバクモナク イグホドモ、

られ ラレ ソノバニ、ウチ 貴婦人 キフジン トイ女、 嬢 ジョウ 看護學 カンゴガク 病者ヲ見トリ

義舉 ギキョ 正義ノ爲メニ 救護團 キョウゴダん 人ヲスクヒ保護スルコ 幾ばくもなく イツバクモナク イグホドモ、

澳太利 オーストラリア 瑞西 スウイス 視察 シサツ ルコト、 三六 激戰 ゲキセン タカヒ、 慘 イタ

言語に絶えたり ゴンゴ クチニイハレヌ 册子 サツシ 小サキシ 創設 ソウセツ ハジメテ

德孤ならず トクコ 道徳アル者ハ決シテヒトリダチスルコトナク、 締盟 テイメイ 約條

高等國語讀本女子用下篇字解

リナムスンデ仲間入
リナムスンコト
俘
徽章
紋ツル
偏らず
議決
ヒョーギシテ
キメルコト
連絡を
レンラク

通ぜり
ツツキアヒチ
ツケルコト
三三
佐野常民・大給恆
倣ひ
大總督
ダイソウトク

府
時ニ有栖川熾仁親王
殿下大總督タリ
協賛
同意スル
嘉し
ホメニナリ、ホ
基礎
ドグ○大本ヲ
イフ

維持
ツナギ保
ツコト
三三
公認
表テ立チテ
承諾
聽納
フコト、給
眷護
メグミマモ
リ給フ、

適應
ソレニ釣り合
ハゼルコト
親臨
御自身ニ御出テ
ニナルコト
令旨
仰セ、
彼我の別
敵身方
ノ別

傷痍
キズ、
徧く
表す
アラハ
諸員
ヤクヤクノ
モノドモ、
三三
大趣意
ダイシユ
イ

朝一夕にして
チヨイツセキ
ニトイフコト
須要
ナル、
澁谷村
東京府下豊多
摩郡ニアリ、
熾仁
タルヒト

親王妃殿下
シノノヒデン
カ
誘掖
先キニ立チテ引
キマハスコト
實修
實地ニ修業
スルコト
磐梯山の破裂
バンダイサン
ハハレツ

尾の震災
シノサイ
明治廿五年七月十五日
土耳其軍艦の沈没
トルコ
コグンカン
チンボツ
シ土其國ノ使節若干人軍艦ニ搭シテ我が國ニ使
シ歸途紀州沖ニテ軍艦沈没セシ事實ヲ指ス、
三三
濃
シノ

三三
三陸地方の津浪
サニリク
チホ
ツツナミ
明治廿九年六月十五日

らふ
慰勞スル
チ云フ、
彰仁親王
資格
式身分格
御し
召シ服シ給
フコト、
緋帶
キズチマ
キオホフ

ニ用フル木綿
ノ切ナリ、
義眼
義足
入レ目、
行啓
マフコト、
臨御
御出ムキニ
ナルコト、
容體
ヨイ
タイ

慰問
ナガサメタツ
ネタマフ、
感泣
ダチナガスコト、
三三
熱心懇篤
一心ヲ入レテ、シ
ンセツニセラナス

寡かりし
連戦連勝
ツツケテカツコト、
出征
出テテ敵ヲセ
メリツコト、
供給
キヨ
キヨ

せざる
マニアハ(足ラヌ)
歸朝
ワガ國ヘカ
ハルコト、
叙勳
勳等ヲサツケ
ラルルコト、
賜金
カネヲ、タ
マフコト、

按ずるに
ミルニ、
三三
青は藍より出でて云々
青ト云フ色ハ元ト
藍草ヨリ出来タル

くして云々
上杉謙信が霜ハ軍營ニ満チテ秋
氣清シト詠セシ詩句ニ基ク、
限なく
隠ルル所ナ
キチ云フ、
臺場
ヤバ
壊り

千辛萬苦
サマザマナツ
ライコト、
劍太刀
拭へば
ふりさげ見れば
振り仰
ギテ遠

天の原
大空チ
イフ、
三三
故郷
曇りもはてぬ
シマハメ、
大江
千里

ノ歌「てりもせず曇りもはてぬ春の」
夜のおぼろ月夜にしくものぼなし

まだしきほどのほとゝぎす
まだしハ、いま

タルコトバ、マダソノ時節ニモナラナ
イノニ、ナクほととぎすトイフ意、
(さつき来ば鳴きもふりなんほととぎす)
(すまたしきほどのこゑなきはや)

閨の戸さゝて

戸チシメナイ
テ、トイフ心

葉わけ 葉ノアヒダサ
分ケルコト

秋とほのめく
アキノケシキガ、ホ

立待

ち居待ち 立待ちハ陰曆十七日ノ夜ノ月チイヒ、居
待ちハ陰曆ノ十八日ノ夜ノ月チイフ

木の葉

山の端 山ノハツ

霜にさえ 色ガ、サエルコト

天空 ソラ

疑 數點 四五ヶ

跳

れる

古來 カラ

玉兔

望遠鏡 ガネ

濃淡 スキ、ツ

黑影

四丁 ナカビク、
ナカダカ、

四丁

固體 カタマツタ、カ
タチノモノ

外層 ハツガ

止めざ

る

月質一變 ツキノタチガ、マ
ルテカハルコト

四丁

衛星 附屬シタル
星チイフ

直徑 タシツ

一

塊 ヒトカタ
マリ

絶大 甚ダシク大
ナルコト

四丁

軌道 周リ回ル道
チイフ

樞軸 球ノマン中チ、タ
テニツラマイタ

傾斜 ナガメニ、カ
タムクコト

公轉 地球ノマハリチ、
メグルチイフ

現し

眼鏡

近眼鏡

チカ目ノ人ノ用
フル目ガネ

形像

凸鏡

四丁

凹鏡

透し

倒像

ノ形

原理 大本ノ理
合ヒ

可憐なる カワユラ
シイ

四丁

和蘭

悦び

嵌め

豈

料らんや 思ヒモヨラヌ
トイフ心

覗き見る

簡略 ツトシタル

大劇場

大キナシ

疲勞 ツカレ

雙眼鏡

四丁

消毒劑 ドクチケス、
クスリ

漆喰

漂泊粉

布ナドチサラシテ
白クスルクスリ

石灰岩

山岳 ヤマ

炭酸

純粹なる水 マヅリケノ
ナイ水

氷ノタケヒ

溶く

瓦斯

硬水

石鹼

四丁

混ず

マセル
コト

化合

化学上ノハタラキテ、シセ
ンニガツタイスルコト

溶解の媒 ナカダチ

軟水

曝され

状 カタ(アリ)
チ、(サマ)

逢ひ

巨大 大キナ
ル

岩洞

往々 ママ

互る

ナカクツツ

天井

徐々に ソロ

四丁

増大 フエテ大キク
ナルコト

圓錐狀

ノヨトナ、カタチ

圓柱狀

マルバ

垂下 タレサ
ガル

石鐘乳

尖頭

サキ

續々と

ヒキツヅイテ、
タエヌサマ

床

上 <small>ウヘ</small> <small>トコ</small>	堆積 <small>ツツタカクツ</small>	筭 <small>タケノコ</small> 石筭 <small>セキジュン</small>	降下 <small>サガル</small>	林立 <small>ハヤシノ</small>
原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	最初 <small>サイシヨ</small>	小砂利 <small>コシヤリ</small>	泥 <small>ドロ</small>
原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	最初 <small>サイシヨ</small>	容易 <small>タヤシク</small>	時々刻々 <small>トキトキ</small>
洲 <small>ス</small> <small>ス</small>	洪水 <small>コウスイ</small>	埃及國 <small>エジプト</small>	原因 <small>ゲンイン</small>	三 <small>サン</small>
角洲 <small>カクシュ</small>	水蝕作用 <small>スイシヨクサヨウ</small>	結果 <small>ケツカ</small>	腐植土 <small>フシヨウド</small>	了 <small>リヨウ</small>
作用 <small>サヨウ</small>	破目 <small>ワレメ</small>	蔓つた <small>ハビコ</small>	腐る <small>クサ</small>	了 <small>リヨウ</small>
解 <small>カイ</small> <small>ル</small>	大江匡衡 <small>オホエタダヒラ</small>	頼み少く見えければ <small>ナホルトイフ見</small>	詣 <small>モフ</small> <small>テ</small>	命を召 <small>イノチ</small>
赤染衛門 <small>アカゾノエモン</small>	住吉 <small>スミヨシ</small>	額 <small>ヒタヒ</small>	疾を力 <small>ヤマヒ</small>	許 <small>モト</small>
るべし <small>サレトイフ心</small>	御幣 <small>ミハイ</small>	上東門院 <small>ジョウトーモンイン</small>	疾を力 <small>ヤマヒ</small>	許 <small>モト</small>
五平 <small>イマ</small>	今 <small>イマ</small> <small>カギ</small>	原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	命を召 <small>イノチ</small>	許 <small>モト</small>
思 <small>オモ</small> <small>ヘ</small>	癒 <small>イ</small>	原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	命を召 <small>イノチ</small>	許 <small>モト</small>
思 <small>オモ</small> <small>ヘ</small>	癒 <small>イ</small>	原 <small>モト</small> <small>ツ</small>	命を召 <small>イノチ</small>	許 <small>モト</small>

苔 <small>コク</small> <small>シタ</small>	下 <small>シタ</small>	埋 <small>ウツ</small>	埋 <small>ウツ</small>	五平 <small>イマ</small>	堀秀成 <small>オリヒテナリ</small>
祐成 <small>スケナリ</small>	時致 <small>トキムネ</small>	工藤 <small>クドウ</small>	右幕下 <small>ウバクカ</small>	富士野 <small>フジノ</small>	出 <small>シユツ</small>
家 <small>ケ</small> <small>ズ</small>	遁 <small>ノガ</small>	勘當 <small>カンドウ</small>	障子 <small>ショウジ</small>	陰 <small>カゲ</small>	鎌倉殿 <small>カマクラドノ</small>
家 <small>ケ</small> <small>ズ</small>	遁 <small>ノガ</small>	勘當 <small>カンドウ</small>	障子 <small>ショウジ</small>	陰 <small>カゲ</small>	鎌倉殿 <small>カマクラドノ</small>
狩場 <small>カリバ</small>	物數 <small>モノカズ</small>	狩場 <small>カリバ</small>	物數 <small>モノカズ</small>	御暇 <small>ミトマ</small>	忌 <small>イ</small>
前代未聞 <small>ゼンダイモクン</small>	御女 <small>ミメ</small>	御女 <small>ミメ</small>	御女 <small>ミメ</small>	御女 <small>ミメ</small>	御女 <small>ミメ</small>
五平 <small>イマ</small>	赤澤山 <small>アカザハヤマ</small>	歸 <small>カヘ</small>	歸 <small>カヘ</small>	歸 <small>カヘ</small>	歸 <small>カヘ</small>
心憂 <small>ココロウ</small>	御女性 <small>ミメメ</small>	詮 <small>セン</small>	詮 <small>セン</small>	詮 <small>セン</small>	詮 <small>セン</small>
心憂 <small>ココロウ</small>	御女性 <small>ミメメ</small>	詮 <small>セン</small>	詮 <small>セン</small>	詮 <small>セン</small>	詮 <small>セン</small>
居寄 <small>キヨ</small>	隔 <small>ヘダテ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>
居寄 <small>キヨ</small>	隔 <small>ヘダテ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>	面 <small>オモ</small> <small>イタダ</small>
帽子 <small>カピ</small>	元服 <small>ゲンボク</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>
帽子 <small>カピ</small>	元服 <small>ゲンボク</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>	鳥帽子 <small>トリカバ</small>

高等國語讀本女子用下篇字解

高等國語讀本 女子用 下篇字解終

明治三十五年十二月五日印刷
明治三十五年十二月十日發行

女子國語讀本字解

定價
上篇一 金六錢
中篇二 金六錢
下篇三 金六錢

發行者兼印刷者

金港堂書籍株式會社

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表者 右社長

原 亮 一 郎

東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

印刷所

帝國印刷株式會社

東京市京橋區築地三丁目十五番地

不許複製

賣捌所

各府縣特約販賣所

學教科書
4
127

◎試驗やすみ 本社編輯 定價金拾貳錢

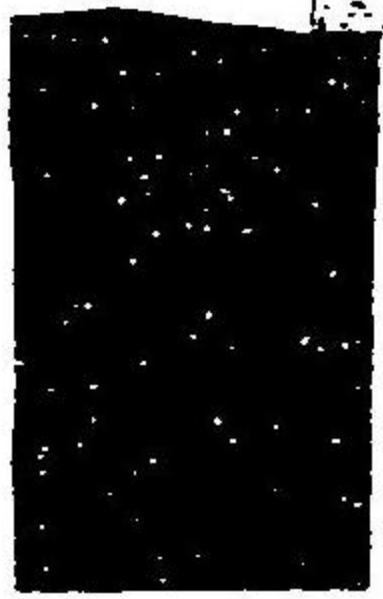
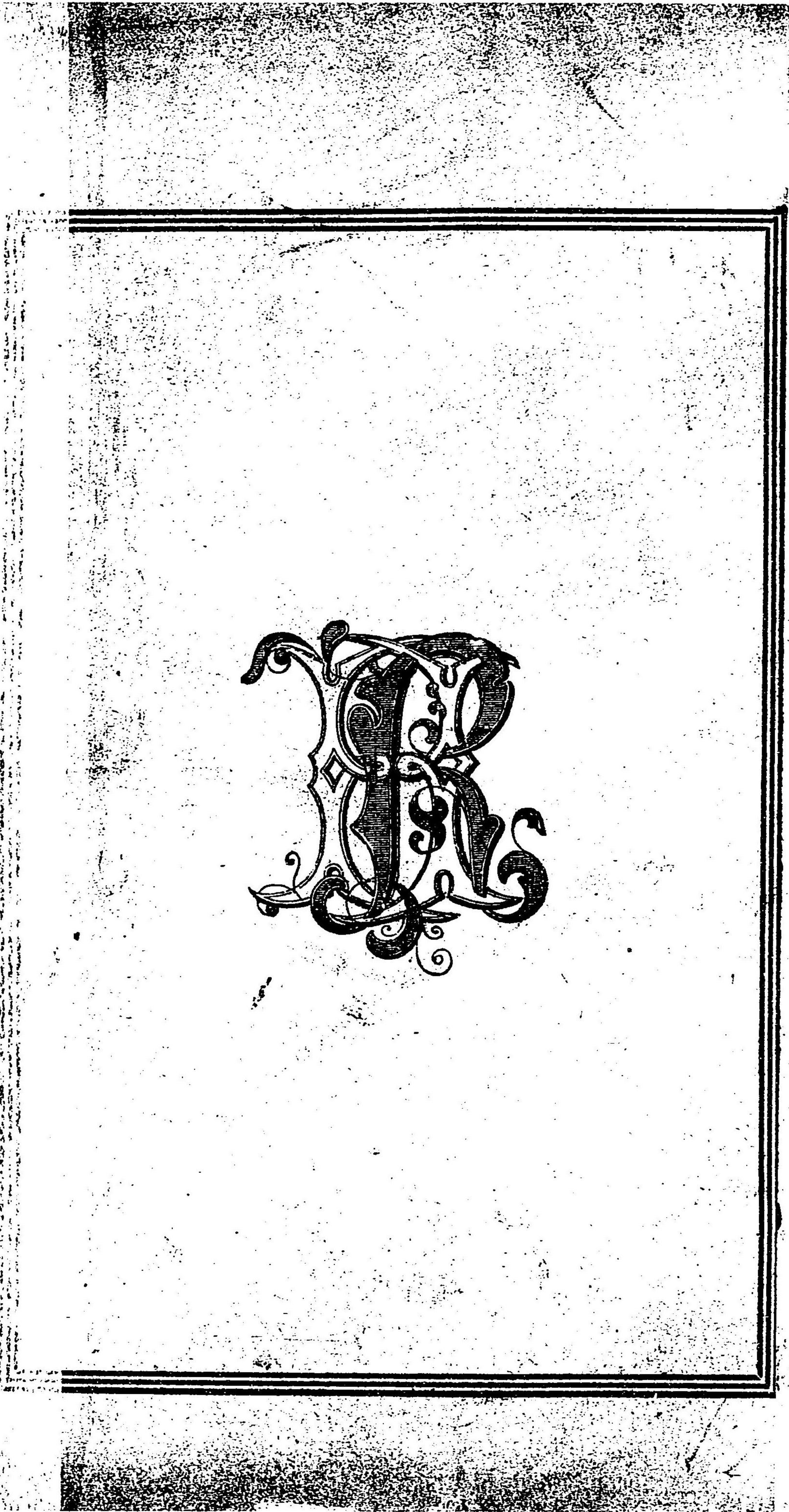
◎姉と弟 本社編輯 定價金拾貳錢

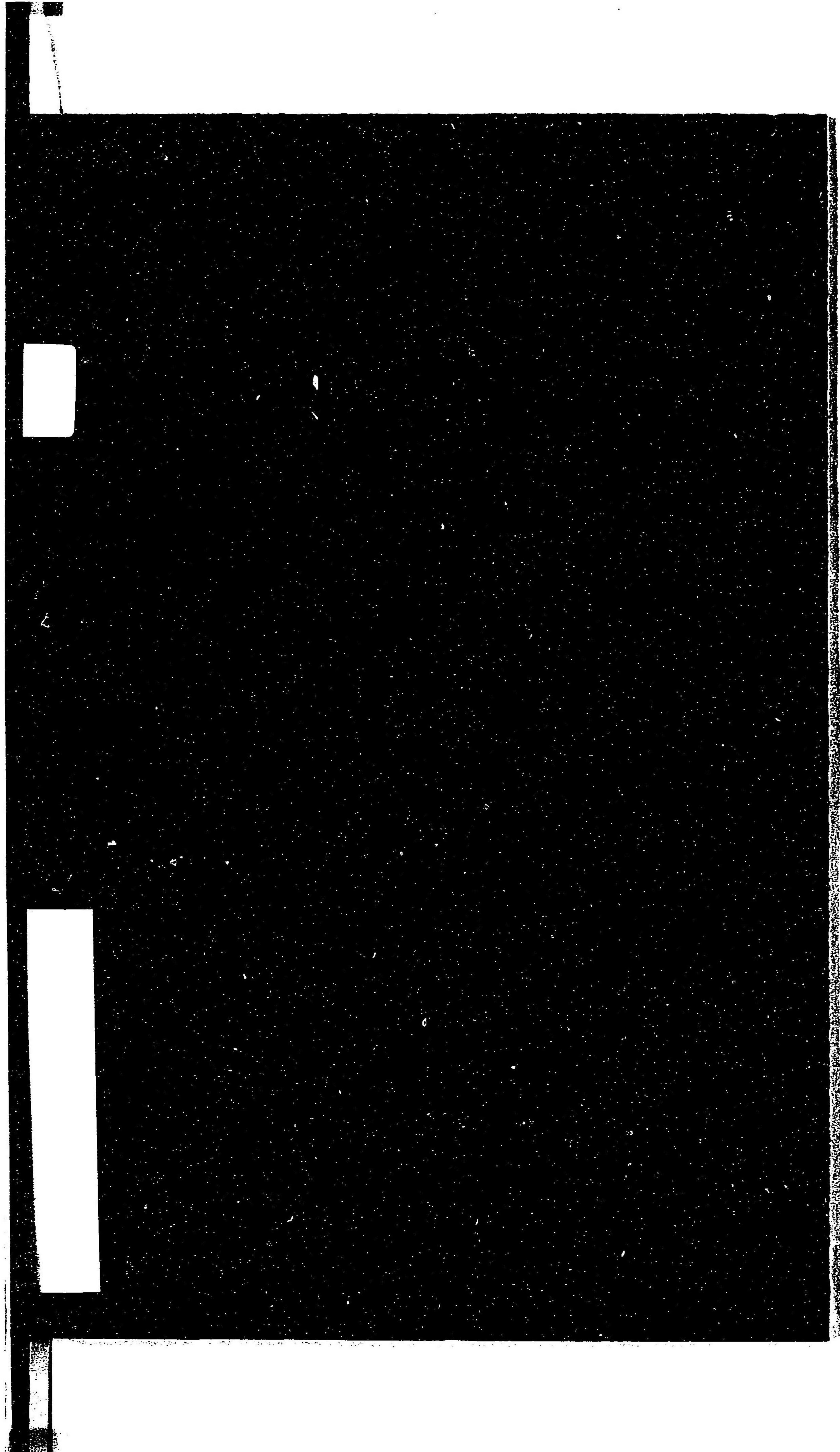
◎良家庭 本社編輯 定價金拾錢

◎菊水 本社編輯 定價金拾貳錢

◎國民の心得 竹涯生著 定價金拾八錢

◎拾圓紙幣の物語 吉田幾三郎氏著 定價金參拾錢





特 4 6

763

高等 国語読本字解

女子用 下

国立国会図書館